



「遼河はるひ」さん 犬山観光特使就任と これからの持続可能な 観光まちづくり



【就任のいきさつとこれからの関わり】

子どものころから、犬山が大好きで、犬山に何度も来てくださって、犬山グルメにも通で、さらに「犬山の観光特使になりたい」とメディアを通じて発信して下さっていました。それがご縁で、犬山市から遼河はるひさんにアプロー

チして、犬山観光特使に就任していただきました。遼河さんとともに、さらに求心力のある犬山づくりに取り組んでいきます。

【今ある賑わいを振り返る】

どうして今があるのか…そのプロセスを大切にしなければならぬと思っています。

25年前の城下町は、シャッター通りで人通りはほとんどありませんでした。そこから再び賑わいを戻すために、城下町のみなさんや商工会議所、観光協会、まちづくり株式会社など、さまざま関係者のみなさんが考え動きました。

城下町の都市計画道路を拡幅しないという、当時にはあり得ない政治判断をして、犬山城の登城者数が約19万人と過去最少時にまちづくり株式会社が設立され、名鉄との観光キャンペーンが始まり、電線類の地中化や道路の美装化、SNS映えなど一つ一つの積み重ねと、みなさんの^{おも}想いと心があつて、今があります。今の賑わいが^{にぎ}当たり前ではありません。

【さらに犬山や城下町がよくなるためには】

「買い手よし」「売り手よし」「世間よし」と言う三方よしのように、「観光客よし」「お店よし」「地元と社会よし」となつてこそ、論語が示す「近きもの喜び、遠きもの来たる」になるのだと思っています。犬山に出店下さるみなさんには、感謝をしながら、お願いがあります。ぜひこれまでのプロセスや犬山の想いを受け止めていただき、犬山の賑わいづくりにご一緒下さい。さらに、商売だけでなく、犬山を大好きになって、そこに住むみなさんに想いを寄せて下さい。そうすれば、もっともっと犬山はよくなります。それだけの潜在力と可能性、求心力が犬山にはあるのですから。簡単ではありませんが、その想いを持って取り組んでいきます。

そこから「来るまち犬山だけでなく、住むまち犬山」へと転換できる持続可能な観光まちづくりにつなげていきます。

「来る人が楽しみ 住む人が喜ぶ」まちづくりで、犬山を前に進めます。